

## 平成 31 年度 開智国際大学入学式 学長式辞（抜粋）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんのご入学を、私たち教職員・在学生ともにお待ちしておりました。

桜が満開の春の日に、新元号「令和」が公布され新しい時代への期待に胸膨らむこの日、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、平成 31 年度の入学式を執り行うことができますこと大変うれしく光栄に存じます。

保護者の皆様、ご子息、ご息女のご入学、真におめでとうございます。ご列席に感謝いたしますとともに、心よりお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、教育学部と国際教養学部の第三期生として、大きな希望を胸に、決意も新たに大学の門をくぐられたことでしょう。

開智国際大学の大学名にふさわしく、今年度は、インドネシア、ウズベキスタン、韓国、スリランカ、中国、ネパール、バングラデッシュ、フランス、モンゴル、そして日本の 10 ヶ国から学生を迎え、在学生、教職員の皆さんを加えると、本学のこの小さなキャンパスには、18 ヶ国からの人々が集まっています。

「豊かな色彩は生の輝き——一つに染まれば社会は縮む」。日本経済新聞の「私の履歴書」のタイトルに、この言葉を見つけた時、私はハッとしました。東京芸術大学名誉教授であり洋画家の絹谷幸二画伯の「履歴書」第 1 回目のタイトルでした。それは、2015 年 11 月 1 日。本学が、開智国際大学と大学名を変えた年の秋のことです。様々な色彩の絵の具を使って、色鮮やかな絵を描かれる絹谷画伯は、文化庁主催の「子供 夢・アート・アカデミー」に参加するため、宮城県気仙沼市の中学校の会場を訪れ、教室や体育館で絵の具を準備して待つ子供たちに話しかけました。

「赤を見ればドキドキ興奮するし、青は心を落ちつかせてくれる。色彩にはビタミン剤のような効力があるんだよ。ホウレンソウやニンジンを食べると体を健康にするように、私たちは目から色を食べると元気になるんだ」という持論を展開し、次のように続けられます。

「色彩が豊かな所には人が集まり、生きる喜びが交錯する。多様な色をもつ社会では一人ひとりが個性をきらめかせ、のびのびと生きることができる」。

画伯の持論にいたく感動した私は、これこそダイバーシティの真髄だ、と、心がドキドキしました。大学のキャンパスも「豊かな色彩」で色付けしよう、様々なバックグラウンドを持つ人々が集まってくるのが、キャンパスに「生の輝き」をみなぎらせる、と興奮したものです。

2019年4月、開智国際大学では、キャンパスが豊かな色彩で輝いています。これから皆さんとご一緒に、どんな絵を描いていくのでしょうか？ とても楽しみです。

本日は、皆さんの新たな目標に向かう歩みが始まる、出発の日です。高校時代とは全く違った学びの日々が始まります。高校では、ほとんどの授業は、学校で決められた時間割どおりに受けなければならなかったと思います。あまり得意ではない科目の勉強もしなければならなかったでしょう。ところが、大学では、必修科目がいくつかはあるのですが、多くは、自分で選択します。授業をデザインするのは皆さん自身なのです。皆さんが自分で考えながら、自分の学びの枠を作っていきます。

大学では、なぜこのような方法で「学びの枠」を自分で決めるのでしょうか。それは、「考える」大人になるために、「自立できる」大人になるために、大学では個人の学びの自由を大切にしているからです。変化が激しく多様な価値観がぶつかり合う21世紀の社会では、過去の経験や事例が、以前ほど役に立たなくなっています。現状を分析し、目標や課題を明らかにし、自ら考え行動する力は、いま最も必要とされる能力です。何事も受けて立つ強靱な精神力、状況を見極める判断力、自分の意見を大切にしながらも環境に適応する柔軟な対応力、そして果敢に立ち向かう挑戦力が求められるのです。これこそは、教育学部、国際教養学部に通ずる本学の学びの礎であり、皆さんを育む力であり、オールラウンドな「人間力」の育成につながっています。

この学びの過程で、また、自ら果敢に挑戦する過程で、そして日々の生活の中で、皆さんは、様々な情報を収集されるでしょう。あるいは、様々な情報にぶつかるでしょう。書物や雑誌、ネット上にある情報は膨大なものです。氾濫する情報の中から、適切な価値ある情報を見極めることは、今の時代を生き抜くために必要不可欠です。片時も手放せなくなっているスマートフォンは、情報の宝庫でもあり、ゴミだめでもあるのです。価値ある情報、の真偽を確認して、自分にとって

必要な価値ある情報を正しく選択するためには、幅広い教養とそこから生まれる見識に裏打ちされた、確固とした「座標軸」が必要です。「見識」とは、「物事を深く見通し本質をとらえる優れた判断力」をいいます。「教養」と「見識」こそ、情報を見極める力に必要不可欠です。そして「見識」は、「教養」の上に成り立つのです。

本学では、大学設立時から、「教養教育」を教育の柱に据えて、幅広い分野に科目を設け、学生の様々な関心にこたえられる学びの機会を提供して参りました。この豊かな土壌を作るために、本学が創立以来大切にし、誇りにしているのは少人数教育です。先生と学生の距離が近い本学では、「対話」を大切にし、一人ひとりの個性に寄り添う形で進められる教育は、多様性を認め合う環境の中で育まれます。また、本学のキャンパスは、四季それぞれの美しさに、細やかな季節の変化を伝え、私たちの感受性を豊かに育ててくれます。このように恵まれた環境で、4年間、先生方や友人との対話の中から、刺激を受け合って、より深い学びと向き合ってください。人間として、揺るぎない「座標軸」をご自身のなかに作り上げてください。

幅広い教養を身につけ、奥の深い研究をし、課外活動にもチャレンジしてください。生涯にわたって信頼できる仲間も増やしてください。4年間の大学生活が、様々な対話と気づきを得る場として、有意義で実り多いものとなりますよう祈念して、式辞といたします。

ご入学、真におめでとうございます。

平成 31 年 4 月 2 日  
学長 北垣 日出子